10 月 16 日のメッセージ

聖書：ヨハネの黙示録　7：　2－4、9－12

「数えきれないほどの大群衆が」

パウロが何度も、何度も「躓くことなく歩め」「揺るぐことのない信仰を保て」と言うのはなぜでしょう。それは、信仰者には希望があるからです。しかもそれは、絵に描いた餅ではありません。はっきりと形を持って示される希望です。

神は常に信ずる者と向き合い、助けを与え、希望を示してこられました。

預言者イザヤは、バビロンに囚われたイスラエルの民に向かって神の栄光を告げます。「あなたは驚くべき計画を成就された」(「主よ、あなたはわたしの神／わたしはあなたをあがめ／御名に感謝をささげます。あなたは驚くべき計画を成就された／遠い昔からの揺るぎない真実をもって。」イザヤ書 25:1)と。

確かに今はまだ囚われの身です。しかし、「主なる神は、すべての顔から涙をぬぐい／御自分の民の恥を／地上からぬぐい去ってくださる」(イザヤ書 25:8)。神は必ず力を発揮され、イスラエルを救い出してくださると約束されました。

そして、それは成就されたのです(「捕らえ移された先から上って来た……彼らはバビロンの王ネブカドネツァルによってバビロンに連行されたが、それぞれエルサレムとユダにある自分の町に帰った者たちである。」エズラ記 2:1)。

イエスはローマに支配されたイスラエルにあって、真の神の思いを告げられました。「心の貧しい人々は、幸いである、／天の国はその人たちのものである」(マタイによる福音書 5:3)と。

ローマ帝国は寛大な国家だったので、ある程度までは信仰生活も保障されていました。しかし、その中にあって苦しむ者、悩む者は数多くありました。加えて、信仰の中心であった神殿からも見放された人々がいたのです。イエスはそのような一人ひとりに寄り添い、「あなたたちこそ慰められる」(「悲しむ人々は、幸いである、／その人たちは慰められる。」マタイによる福音書 5:4)と教えられました。

そして、イエスの言葉は、御自身の十字架と復活によって成就されたのです(「イエスは言われた。『わたしについてモーセの律法と預言者の書と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現する。これこそ、まだあなたがたと一緒にいたころ、言っておいたことである。』」ルカによる福音書 24:44)。

今、私たちに示される希望は何でしょうか。それは私たちがこの地上の歩みを終えた後も神と共に歩み、先達と共に救いに与るのだということに他なりません。しかも、躓いた者、揺らいだ者も、ありとあらゆる者が共に招かれるという希望です(「この後、わたしが見ていると、見よ、あらゆる国民、種族、民族、言葉の違う民の中から集まった、だれにも数えきれないほどの大群衆が、白い衣を身に着け、手になつめやしの枝を持ち、玉座の前と小羊の前に立って」ヨハネの黙示録 7:9)。

「数えきれないほどの大群衆が」救われるのならば、私もそこに加えていただけるという希望がわいてくるでしょう。そして、「救いは、玉座に座っておられるわたしたちの神と、／小羊とのものである」(ヨハネの黙示録 7:10)と、喜びを爆発させる歓喜の輪に私もまた招かれたい、いや、招かれているのだと希望を持つことができます。

「喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある。」(マタイによる福音書 5:12)と、イエスも言われています。希望は確固たる形を持って今、私たちに示されています。

だから、今日も私たちは、天の祝宴を先取りした礼拝に共に集い、希望を与えてくださった神を共に賛美するのです。「アーメン。賛美、栄光、知恵、感謝、／誉れ、力、威力が、／世々限りなくわたしたちの神にありますように、／アーメン。」(ヨハネの黙示録 7:12)